

史跡 田小屋野貝塚

(読み方) しせき たごやのかいづか

(英語) Tagoyano Site

【所在地】

青森県つがる市木造

【年代】

紀元前4,000年～紀元前2,000年 (約6,000～4,000年前)

【キャッチコピー】

古十三湖に面した貝塚を伴う集落跡

【説明文：98字】

海進期に形成された古十三湖に面した貝塚を伴う集落跡。貝塚からはヤマトシジミを主体に、クジラ・イルカの骨を加工した骨角器、ベンケイガイ製貝輪の未製品も多数出土し、内湾地域における生業の様子を伝える。

【説明文：148字】

海進期に形成された古十三湖に面した貝塚を伴う集落跡。集落には、竪穴建物、墓、貝塚、貯蔵穴など、多様な施設が配置されている。貝塚からは、汽水域に棲息するヤマトシジミを主体に、魚骨や海獣骨、装身具であるベンケイガイ製の貝輪の未製品が多数出土し、内湾地域における生業や集落の様子を示す重要な遺跡である。

【説明文：245字】

海進期に形成された古十三湖に面した貝塚を伴う集落跡。集落には、竪穴建物、墓、捨て場、貝塚、貯蔵穴など、多様な施設が配置されている。貝塚からは、土器や石器のほか、汽水域に棲息するヤマトシジミを主体に、コイやサバなどの魚骨、イルカやクジラなどの海獣骨、動物の骨を加工した骨角器なども出土している。このほか、装身具であるベンケイガイ製の貝輪(プレスレット)の未製品が多数出土し、集落内で貝輪の製作が行われていたことも明らかになっている。内湾地域における生業や集落の様子を知る上で重要な遺跡である。